

## 第1回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

雨で延期となったため、予備日の平成25年6月21日(金)に14名が参加して、今年度最初の「第1回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。今回は、釧路町岩保木水門付近での「樹木の生育観察・植樹・ポット苗づくり」と細岡展望台での「湿原学習」を行いました。

### 「花咲かじいさんプロジェクト」に参加

平成8年から岩保木水門周辺で、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と協働で実施している「花咲かじいさんプロジェクト」※1に今年も参加しました。

※1「花咲かじいさんプロジェクト」の説明は、別紙の「花咲かじいさんプロジェクト」に掲載されています。また、下記URLにも掲載しておりますので、そちらも併せてご覧下さい。

<http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/nframes/12.html>



位置図

### ●樹木の生育観察

過去に「釧路湿原川レンジャー」の皆さんが植樹した箇所を中心に観察したところ、大きく成長している樹木はありますが、エゾシカなどによる食害や先枯れなどの生育不良、枯死している樹木も多く見られました。しかし、生存している樹木は、厳しい自然環境の中でゆっくりと成長していることがわかりました。また、昨年の植樹箇所は食害が少なく、順調に生育していたので、参加した皆さんは今後の成長に期待していました。



過去の植樹の生育状況を確認

### ●植樹作業

植樹したポット苗は、ハルニレ・ヤチダモ・ミズナラなど25種類で、釧路川流域や釧路湿原の自然林の種子から育てたものを使用しました。作業は下記の①～④の手順で行い、1サークルにポット苗を10ポット、計17サークルに170ポット植樹しました。なお、最後に行った樹木記録(植えた位置と樹高)調査は、今後の生育の基礎資料になります。



調査した樹木記録



①最初に苗を10ポット選ぶ



②直径3mのサークル内に植樹



③植えた苗に水撒き



④最後に樹木記録調査

### ●ポット苗づくり

作業は、ポットに炭(多孔質なので保水効果がある)を入れ、樹種ごとに苗を3~5本の束(1本では弱いため)で移植しました。苗は種子から育てたヤチダモやマユミなど2~6年経過したものを使用し、約200個のポット苗を作りました。なお、今回のポット苗は来年度以降に植樹する予定です。

午前最後の最後に周辺のゴミ拾いをしましたが、タバコの吸い殻やペットボトルなど小さなゴミが目立ちました。なお、管理している釧路河川事務所のお話では、以前は洗濯機など大型ゴミの不法投棄が多かったのですが、最近では家庭ゴミをわざわざ捨てる人が増えているそうです。



移植した5樹種のポット苗



ポットに移植



ゴミを拾う参加者



作ったポット苗と記念撮影

●細岡展望台での「湿原学習」

午後からは釧路町の細岡展望台に移動して、釧路湿原川レンジャーにも登録している、「くしろ自然再生解説員」の伊藤達哉氏に説明していただき、「湿原学習」を行いました。「くしろ自然再生解説員」は、釧路町細岡展望台で釧路湿原の特徴や釧路湿原自然再生事業について、訪れた観光客にボランティアで解説活動を行っています。



パネルを使って解説する伊藤氏



解説を聞く参加者

今回の解説は、釧路湿原や自然再生事業、タンチョウなどについて紙芝居を用いて行い、解説を聞いた参加者からは「紙芝居を使った説明がとてもわかりやすかった。」などの感想がありました。

最後に伊藤氏から『釧路湿原の減少を食い止めるには、自然再生事業や釧路湿原川レンジャーの皆さんを含めた地元の熱意がなければ実現できないと思っています。』と説明がありました。なお、解説していただいた主な内容は、下表にまとめました。

表-1 湿原学習の解説内容

項目	内容
釧路湿原について	・日本最大の湿原で、国内28番目の国立公園に指定
	・釧路湿原の面積は一昨年に2000haほど増え、約2万2千ha（全国1位）
	・釧路川の延長は154kmで、源流である屈斜路湖から河口までの高低差は約120mと小さく、緩やかな河川。地形は東側が低いため、湿原の東側に釧路川や湖があり、川を中心に発展するため鉄道なども東側にある
	・世界でも珍しい、市街からの距離が近い湿原
	・釧路湿原は、車で一周すると約3時間
	・北海道には大きな湿原が多い（全国の1~5位が北海道の湿原）
	・霧は湿原にとって好条件（天候と湿原には密接な関係がある）
自然再生について （茅沼地区）	・河川の直線化によって、水が早く河口に流れて周辺の水が引くため、乾燥化が進行
	・乾燥化によって牧草地などになり、人間にとっては良かったが自然にとっては悪い方向へ
	・蛇行復元によって河川の氾濫が増え、湿原の植生（ヨシなど）回復に期待している
湿原ならではの生き物-タンチョウ	・タンチョウは、国の特別天然記念物
	・世界で2500~3000羽いるうち、道東地方に1400~1500羽
	・道東地方に多いのは、自然界の餌だけでなく、冬季に餌付けをしているため
	・湧き水が出て、凍らない川などを棲床にしている
	・大正13年に十数羽だったタンチョウが、人間の保護によって、現在の数に増加
湿原ならではの生き物-タンチョウ	・釧路湿原は、オオハクチョウなどの渡り鳥にとって越冬地・中継地として大切な場所
	・ラムサール条約の登録湿地も増えており、現在46箇所（釧路湿原は1980年に日本で1番目に登録）

●意見交換会

学習会の最後に当日の感想や意見などを出し合っ、意見交換会を行いました。なお、主な意見や感想は以下にまとめました。

- ・何度かやって慣れたのか、今年は凄くスムーズに植える事ができました。植えた苗が2年3年経って、どのくらい残っているか楽しみにしています。
- ・長い年数が経過して成長がかなり遅い苗は、過酷な環境に植樹して上手く育つのだろうか？
- ・大きなゴミは無かったのですが、煙草の吸い殻が多かったです。個々のモラルによるのですが、湿原を愛する人は捨ててはいけません。どうにかならないものか？
- ・植樹についてですが、人工衛星から見てグリーンベルトに見える様にやっているという話を聞いた。100年も200年もズーツと続くことなので、綺麗なグリーンベルトになれば良いと思います。

**解説されたパネルの抜粋**

**日本でいちばん大きな湿原**

日本における代表的な湿原の面積

・北海道には大きな湿原が多い(1~5位)  
・釧路湿原は日本最大  
・夏で一年3割増し

**世界でも珍しい 都市に近い湿原**

世界でも珍しい都市に近い湿原  
・アクセスしやすく、日常的に利用OK

**釧路湿原のタンチョウ**

世界で2500~3000羽  
・釧路湿原周辺で約1200羽  
・1年を過ごし、湿原で生活  
・夏場は湿原で子育て



**観察活動の報告を紹介！！**

観察活動の報告を紹介します。今回も不法投棄の報告が多く、その他にフェンスや看板の破損など危険箇所の報告もありました。ゴミの不法投棄については、個人のモラルの部分の大きいと思いますが、常にごみがないような捨てにくい環境づくりが大切だと思います。今後も紹介しますので皆さんからの報告をお待ちしております。

**観察活動で報告された内容とその対応（6月分）**

報告日	報告内容	対応
H25.6.4	ゴミの不法投棄	釧路河川事務所まで回収処分
H25.6.4	防護柵の倒壊	管理者である北海道に連絡
H25.6.4	看板の破損	管理者である北海道に連絡
H25.6.4	動物報告:鳥	貴重な環境情報として取り扱う
H25.6.28	ゴミの不法投棄	釧路河川事務所まで回収処分

